



研究テーマ

- 1 農業分野関連語彙
- 2 キャンパス内協働英語学習
- 3 英語学習者のオンライン交流効果

研究概要

学生の英語への学習意欲、学習効果を高める研究を行っています、具体的には、学習者の使用語彙や、大学生と留学生の協働学習、英語学習者のオンライン交流、多読等を行っています。特に、農学分野を専攻する大学生を対象とした教材作成を目的とし、彼らの研究や将来の仕事で必要となる語彙や表現の収集と調査に現在は取り組んでいます。

山本 佳代

やまもと かよ
国際連携機構
多言語多文化教育研究センター

准教授

キーワード

英語教育、語彙、ESP、農学、ムーブ分析、国際英語、オンライン交流

特許情報・
共同研究・
応用分野など

令和2年度～令和4年度
社会ネットワーク分析を用いた外国語学習環境の研究
科研費分担者(20K00860)
令和元年度～令和3年度
獣医学ESPカリキュラム作成のための基礎研究 科研費代表者(19K00913)
平成28年～30年
農学ESPのニーズ分析と方法的検討 科研費研究代表者(16K028440001)
平成27年度～
On-campus Exchange Program 代表者
平成26年～28年
国際協同学習における参加ネットワークと第二言語発達過程に関する基礎研究 科研費分担者

1 農業分野関連語彙

一般英語から専門分野で使用する語彙・表現への橋渡しとなる教材作成を目的とし、農学分野で用いられる語彙や表現の収集・分析を行っています。社会の多様化により、大学のカリキュラムも変化し続け、学際的な学部も増えています。歴史的に学際的な特色を持つ農学分野の語彙分析を行い、語彙教育を行うと共に、他分野の専門英語へのアプローチへとなることを目指しています。



2 キャンパス内協働英語学習

大学生と留学生が授業で交流を行う「国際英語」環境の中で、英語、国際交流、異文化に対する意識の変化を測ることを目的としています。平成27年度から毎セメスター、留学生(インド・南アフリカ・アメリカ・ブラジル等 33か国64名)と日本人学生が相互にプレゼンテーションし、交流してきました。宮崎に居住する外国人の数は他県に比べ少なく、学生が日常生活の中で英語を必要とする機会が殆どないことから、英語学習への動機づけの貴重なプログラムとなっています。



3 英語学習者のオンライン交流効果

英語学習の目的設定の1つとなるよう、学生に英語という共通の言語を用いた交流の場を提供しています。数か国(スペイン、ベトナム、台湾、トルコ、フィンランド等)の学生との交流の中から、彼らの使用語彙や表現の分析、語学教材についての研究、また、交流の頻度から動機づけについての研究を行ったりしています。



ホームページ

なし

技術相談に応じられる関連分野

特定の分野のための語学プログラムの企画・立案に関するご相談、本学留学生の地域学習と組み合わせた国際理解学習イベントのコーディネート等

メッセージ

グローバル化が進む大学キャンパスより、グローバル化時代の語学や国際理解教育のあり方を、地域の皆様とともに考えていければと思っています。